

## 【概況】<米長期金利上昇~中国コロナ感染者増加~ロシア産原油上限価格>

●18日、ボストン連邦準備銀行のコーズ総裁は18日の講演で、物価安定維持が不可欠という認識を示し、FRBによる追加利上げの必要性を強調しました。12月の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、利上げ幅が50ベースポイント(bp)に縮小されるとの見方が強まっていますが、コーズ総裁は75bpの利上げの可能性も排除しなかった。この発言を受けて米長期金利が上昇し、対ユーロでドル高が進行しドル建て商品である原油の割高感から、朝方に売りが膨らみ相場は**80.08**ドルへ続落しました。

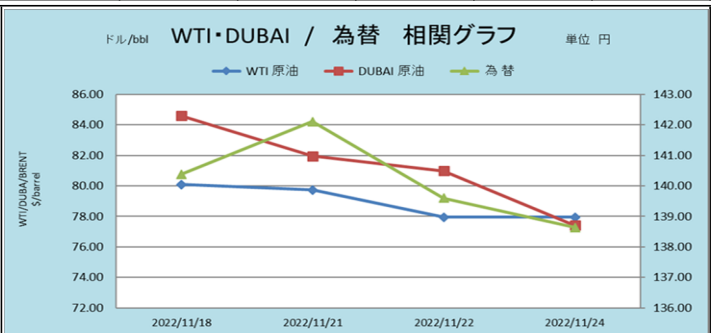
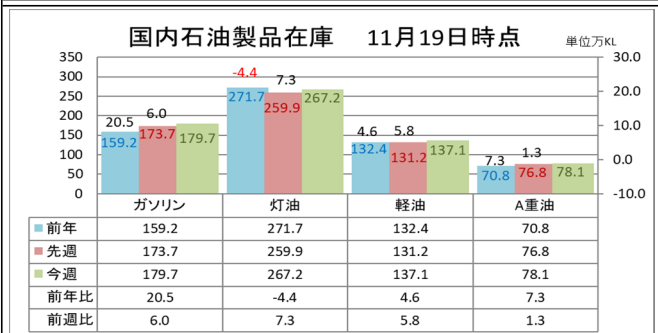
●21日、中国本土で20日に確認された新型コロナウイルス新規感染者数は2万6824人に増加し、厳しい感染防止策として導入されている「ゼロコロナ」政策の緩和は現時点で厳しいとの見方が一段と拡大。石油輸入大国である中国の景気後退に伴うエネルギー需要減少の観測で相場は**79.73**ドルへ下落しました。

●22日、ロイター通信によると、サウジアラビアとOPEC加盟国が最大で日量50万バレルの増産を検討しているとの事が21日の報道を巡り、サウジのアブドゥルアジズ・エネルギー相は報道を否定。現行の減産方針を維持する方針を示唆したことから、買いが先行し相場は**80.95**ドルへ上伸しました。

●23日、米メディアによると、先進7カ国(G7)や欧州連合(EU)は、ロシアのウクライナ侵攻に対する追加制裁として、ロシア産原油の取引上限価格の設定を検討。ロイター通信はEU外交筋の話として、G7が上限を65~70ドルにすることを検討しているとの事と報じました。これは現在の取引価格をやや上回ることから、取引量は抑えられないとの見方が広がり、売りが先行し相場は**77.94**ドルへ下落しました。

●24日、サンクスギビングデー(感謝祭)の為、休場。  
G7はロシア産原油の上限価格を、ロシアの生産コストを上回る65ドル/bbl~70ドル/bblで設定することを検討している。ロシアはここ数か月ですでに現状水準から20ドル/bbl程度安く原油を販売しているため、上限価格の設定がロシアの原油取引に及ぼす影響は限定的となる模様です。米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間統計では先週末時点の米国ガソリン在庫が前週比で予想外に増加し、+305.8万bblとなっています。また、中国での新型コロナウイルス感染拡大を受け、銅需要が減退するとの見方から売りが入りました。上海や北京など一部の主要都市では感染拡大を受け、新たな移動制限措置が打ち出されています。

11月25日 16:00現在 WTI原油 78.40ドル 為替 1ドル 140.11円



	次回元売変動予測	
	12/1~	元売変動予測
ガソリン	➡	+0.4~+0.9
灯油	➡	+0.4~+0.9
軽油	➡	+0.4~+0.9
A重油	➡	+0.4~+0.9
L S A	➡	+0.4~+0.9

## 【製品卸価格】<販売終了した業者から市場から撤退。市況改善となるか?>

◀今週▶ 今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは、「-6.5円」、補助金は、「-25.7円」、都合「+0.1円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの21日時点の小売価格平均は167.6円となっております。

◀11月26日以降▶ 次回の元売り改定は、原油コストは、「-5.5円~-5.0円」、激変緩和補助金は「-19.8円」の見込みで、都合「+0.4~+0.9円」の値上げ改定の予測となっています。市況をリードしていた市況連動玉を持つ業者は、23日までにあらかじめの販売枠を売り終わったため少し市況が改善されてきました。しかしまだ販売枠を残している業者もあるため大幅な市況改善とまではいきませんが、販売枠が終了した業者から市場から撤退していきスポット玉が縮小した油種から市況は改善されていきます。阪神地区の軽油、重油、中京地区の灯油、軽油は、出物が縮小傾向になってきました。原油は大幅下落していますが、補助金が大幅に減額されるため次回の改定も値上げ予測となっています。12月1日の価格改定以降の市況については、月変わりのため一旦リセット値上げも考えられます。その場合は、月末近くには仮需が発生する可能性もあります。

## 【次世代エネルギー】<神戸製鋼が100%水素還元製の製鉄プラント受注、商用稼働は「世界初」>

神戸製鋼所の米国子会社などは、水素を還元剤とする製鉄プラント「MIDREX H2 直接還元鉄プラント」をスウェーデンの製鉄会社であるH2GSから受注しました。100%水素を還元剤として用いることで、二酸化炭素(CO2)排出量をほぼゼロにできるのが特徴。併せて、神戸製鋼はH2GSへの出資を決めたとの事です。プラントの稼働開始は2025年を計画しています。

100%水素を還元剤とする製鉄プラントの商用稼働は「世界で初めて」(神戸製鋼)となる見込みです。H2GSに納入する製鉄プラントでは、再生可能エネルギーを利用した水電分解で生成した水素を用います。冷却せずに炉から排出したH2RI(熱間直接還元鉄)と、ある程度の大きさの塊に押し固めたHBI(熱間成型還元鉄)を製造します。年産能力は210万トン。H2RIは、電気炉工程を経て自動車用鋼板などとして供給します。神戸製鋼は、将来的なHBIの購入についてもH2GSと協議を開始しています。

H2GS向けの製鉄プラントは、神戸製鋼の100%子会社である米Midrex Technologies(ミドレックステクノロジーズ)と、ライセンス供与先のルクセンブルクPaul Wurth(ポールワース)のコンソーシアムが受注しました。

神戸製鋼グループは天然ガスを改質した水素リッチガスを改質剤とする製鉄プラントも手掛けており、同方式はすでに90基以上が世界で稼働しているとの事です。

[出典] ① <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/18/13967/>